京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十二年　紀元二千五百六十九年
本紙定價　一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢
大祭日及び日曜日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所　京城新報社

京城居留民團公文

京城居留民團告示第十五號
明治四十一年度京城居留民團歳入出決算左ノ通居留民會ノ認定ヲ經タリ
明治四十二年十月二十八日
京城居留民團民長　熊谷賴太郎

明治四十一年度京城居留民團歳入出決算

歳入

經常部
第一款　居留民團稅　金十四萬五千〇二十七圓三十七錢
第一項　戸別稅　金六万四千二百九十圓十三錢
第二項　土地稅　金一萬五千〇九十圓五十錢
第三項　營業稅　金一萬六千九百七十二圓四十七錢
第四項　雜種稅　金二万六千四百二十三圓六十二錢
第二款　使用料及手數料　金一萬七千四百九十二圓三十一錢
第一項　使用料　金一萬六千〇八十四圓十一錢
第二項　手數料　金一千四百〇八圓廿錢
第三款　財產ヨリ生スル收入　金七千六百八十三圓四十五錢
第一項　貸地料　金六千四百廿五圓卅六錢
第二項　家屋貸附料　金百四十圓廿三錢
第三項　貯水池貸附料　金七百十五圓九十三錢
第四款　雜收入　金千百卅八圓七十九錢
第一項　不用品賣却代　金卅八圓卅錢
第二項　豫知スヘカラザル收入　金百六十一圓九十八錢
第三項　過年度收入　金九百三十八圓五十一錢
小計　金十七万千三百四十一圓九十二錢

臨時部
第一款　前年度繰越金　金千四百二十三圓七十二錢
第二款　居留民團債　金四萬圓
第三款　寄附金　金七百九十四圓八十二錢
小計　金四萬二千二百十八圓五十四錢
合計　金廿一万三千五百六十圓四十六錢

歳出

經常部
第一款　役所費　金三萬四千四百三十一圓五十一錢
第一項　俸給　金一萬八千百八十五圓六十五錢
第二項　雜給　金一万一千百五十六圓五十八錢
第三項　需用費　金四千八百八十二圓四十八錢
第四項　修繕費　金二百〇六圓八十錢
第二款　會議費　金七百六十二圓五十錢
第一項　雜給　金七百四十三圓五十八錢
第二項　需用費　金十八圓九十二錢
第三款　選擧費　金百圓〇四錢
第四款　公園費　金八十三圓四十錢
第五款　土木費　金三千九百五十五圓九十六錢
第一項　道路橋梁費　金三千百三十七圓三十二錢
第二項　雜給　金二百八十七圓卅錢
第六款　教育費　金五萬〇四百三圓〇四錢
第一項　小學校費　金三万千七百三十一圓八十錢
第二項　高等女學校費　金一萬五千三百四十九圓十三錢
第三項　幼稚園費　金二千八百十一圓十一錢
第四項　賞與金　金一千五百十一圓
第七款　衛生費　金二万三千四百二十五圓〇九錢
第一項　傳染病豫防費　金五百七十五圓三十七錢
第二項　掃除費　金二萬二千八百四十九圓七十二錢
第八款　救助費　金二百〇二圓四十一錢
第九款　警備費　金四千二百五十四圓六十四錢
第十款　水道費　金一百圓
第十一款　火葬場費　金千三百〇五圓卅五錢
第一項　雜給　金四百六十九圓八十三錢
第二項　需用費　金七百卅六圓〇二錢
第三項　修繕費　金九十九圓五十錢
第十二款　墓地費　金三十二圓七十五錢
第十三款　雜支出　金四千七百三十四圓七十七錢
第一項　神社費　金三百八十一圓〇一錢
第二項　交際費　金千四百七十五圓〇五錢
第三項　保險費　金千九百九十四圓〇五錢
第四項　雜支出　金八百八十四圓六十六錢
小計　金十二萬三千六百九十二圓四十六錢

臨時部
第一款　居留民團債費　金三万一千七百五十一圓九十七錢
第二款　公園費　金一千八百十六圓八十三錢
第三款　土木費　金二千四百十三圓十九錢
第四款　教育費　金四万二千三百六十四圓五十七錢
第一項　雜給　金五百六十八圓五十錢
第二項　小學校費　金二万五千〇四十二圓十六錢
第三項　高等女學校費　金七千七百四十九圓九十一錢
第五款　警備費　金五百八十九圓十四錢
第六款　火葬場費　金三百四十七圓五十四錢
第七款　給水費　金四百卅二圓六十二錢
第八款　特別會計補給費　金七千六百九十八圓九十七錢
小計　金八萬八千四百〇九圓七十九錢
合計　金二十一万二千百〇二圓廿五錢
歳入出差引殘金　金一千四百五十八圓二十一錢ハ翌年度ニ繰越ス

雜報

●酒の牡丹公

▲女から二番目　「高樓傾け盡す三杯の酒」とは公が生涯得意の詩で「戀の伊藤公」を語ると共に「酒の伊藤公」にもまた逸すべからざる珍談がある、譬へば六十九年の短からぬ生涯を通じ戀は藤公を裝ひし花で酒は藤公を慰めた命である現に先年軍醫某が酒量を減じられねば身体に障りませうと忠告するや怫然として一喝し「餘計な心配をするな乃公に諫阿云ふより自分の職掌に注意して、軍人でも殺さぬ樣にしろ」と一喝した程で酒は女から二番目の大好物であつた

▲好物は何んな酒　俊介の往昔はいふも野暮だが色の手並に覺め易い侠骨は飽ッぽい牡丹さんよと謡はれる丈け酒も初めは深酔をせぬ術で、日本酒が勝に上つたのだがそれが漸々身分に連れて酒量も上り一晩徹して二升以上も殲る如になりそれでブランデーに浮名が立つたのは初め一二度議會の演説にグッと煽つて景氣を附たのが病み附き殊に氣質が酔ふと一際冴ねる方だから事務が繁忙な時なぞ洋盃でグビ〳〵煽り附たが何時か習性になり晩年にはブランデーや葡萄酒で殘るが

▲名代の泥棒上戸　背張さ來たら名高いもんだが自邸に居る時でも宿屋に寢た時でも讀書の興に目が冴わたり來客の應答に疲れ切た時なぞ誰にも知らせず深夜にソッと起上り獨でノコ〳〵食堂や臺所へ忍び込み手當り次第に好きな酒をグビ〳〵飲て知らぬ顏で寢所へ引返す位醉心地の宜い事はないさうで是が全くの泥棒上戸といふんだらう

▲飲ツ振ご好下物　一体酒の座は頗る平民的な方でチビリ〳〵と盃を嘗めて夜を更すといふ流儀そのれ下物も鹿爪らしい物よりは好きなのは小鍋立て座敷へ七輪を據へて味淋、醬油、豆腐、菜菓なぞの雜物までスッカリ取揃へ冬ならば大好物の帆立貝か寒鴨なぞといふ物を自分に挿んで鍋の中へ鹽梅しうのジリつく音を聞きつゝ手酌で樂しむどいふ流儀でその外凡て川魚が好物殊に琵琶湖の餅脂と來ては箸を放さぬ好物中の好物であつたとは情海の偉傑また一世の酒豪であつたといふ

◎新刊紹介

●貿易(第十號)　本號には伊國ミラン府の美麗なる寫眞版あり田尻博士の關稅改正論は緊切なる大文字也(發行所東京々橋區宗十郎町日本貿易協會)
●東京經濟雜誌(千五百十三號)　本號の讀物は關稅同盟論貿易の盛衰は世界の功拙等にて是も面白し(發行所東京彌左衞門町東京經濟雜誌社)
●新衣裳(十月號)　は美麗なる織物の寫眞板數葉あり記事亦精細流行を知るに好伴侶也(發行所は京都たかしまや呉服店)
●書道(五十七號)　習字希望者には眞に好伴侶也(發行所東京牛込神樂町大日本選書奬勵會)
●滿韓の實業(四十七號)　滿韓實業に關する最も有益なる記事多々あり眞に滿韓實業家必携の書也(發行所釜山滿韓實業協會)
●書齋(一集)　瀟灑なる雜誌なれども內容頗る整備(發行所東京神田東京堂)
●韓國經濟月報(八號)　財務彙報の附錄として度支部の發行に係るもの經濟界の好資料なりとす

●數理の友(二號)

發行所は東京神田數理修學院にて數理研究者の好伴侶

第二十一席　伯山改　神田松鯉口演

主「別に惡戯と申して……仙人の癖に女が好きで、美くしい女がありますと農家の娘だらうが官人の御孃さんだらうが、人の妻であらうが構はずに引攫つて行つて寵愛を致します、所が其女が絹が欲しいと云へば何處からか絹を奪つて來て之れを與へ、金が欲しいと云へば金を與へる、手前共などへも時々異國の人が珍らしい品物を持つて來るさ、其仙人が神通力で之れを知つて夜中雲に乗つてやつて來て其品物を奪つて往くことが度々あります、然し私共を始め國中の人が後難を恐れて何とも言ふことが出來ません、事に依ると貴方方の御品も其仙人が持つて往つたのかも知れません、若し夫れを取返したいと思はるゝなら早く蒼虹山へ趣さ朦雲國師へ嘆願して戻して御貰ひになつたが宜しうございませう之れを聞いた爲朝は心中大に憤りましたが、怒れる心は顏色にも現はさず爲「然らば彼の山へ行いて乞求むるであらう、此所よりは何程の里數ぞ」と問ふに、主「ナニ三里はございませうが、一日の中には盛られまする」爲「左樣か、夫れでは明日とも言はず今日直ぐに參るに致さう」と、直ちに支度を整へ紀を伴つて蒼虹山へと赴きましたが、此山到着し山の半腹迄登つたが、此山の南は海でございまして峯尖く深深柏森然として晝さへ物凄き有樣、に見る〳〵中に朦朧として霧大いり、四邊暗々さして一寸先きも見やうになつたが爲朝は少しも驚きす、心中に「畢竟是れは彼の朦雲が術を以て此霧を起し我徒を遮んとするに相違なし憎さも憎し」主從互に聲を掛け巖を傳ひ松杉りて辛うじて、登らんとするに、如何に爲朝はガバと許りに足を踏らし數百丈の谷底へ眞逆さまに落たり、紀平治は少し前に立つて歩居つたので一向に此事を知らず、は一本の竹さへ取れば能く七尺のを飛こへる手練はあれど、今は不落ちた事故、平生の早業も施しなく、況して闇に均しき眞闇がりなれば、流石の爲朝も落る時に岩角にて横腹をシタゝかに打ち眼昏みて前後も知らずになりました、此時女子の聲にて女「氣付き給へ〳〵」と喚ぶものがあります、爲朝ハッと人心地付き起上りて見るに、年頃三十七八なる婦人と十四五なる女童とが溪川の清き水を汲み來りて爲朝の口に注ぎ頻に介抱して呉れますので爲「是れは如何なる御方かは存ぜねど御親切に難有うござる、」年上の婦人は婦「オゝ別に御怪我はござりませぬか」爲「御親切は辱けないイヤ少々横腹を打ちしなれど大した事はござらん」婦「夫れは結構でござります、就いては御前樣の懷に持し給ふ珠を此女童が珍らしとて濟まぬことながら取出しました、此珠は此少女へ與へたまはん事願はしうございます」爲「オゝ拙者の懷中に珠のありしを如何にして御承知になりしにや」婦「御前樣ご

決し給はず此事に付御苦心遊されましたが、年若き王女も誠に哀れでござります」とホロリと涙を流した。

京城新報

警察力の不備

警察力の普及は保護政治の遂行上最も肝要の一事に屬す、現在の警察力は果して不備の憾なきか、聞く處に依れば今回暴徒が京釜線伊院驛を襲ひたるときの如き、同驛には警官の駐在なかりしの事なるが、果して之を事實とすれば甚だしく不都合の次第也、斯くては警察力の不備を極めたるにあらずや。

聞く、キツチナー元帥の東上せらるゝや、一哩毎に一人の巡査を配置せられたりと、余輩は當局者の用意周到なるを知る、現時の如く暴徒の出沒極りなきに於て、殊に警察力の普及を最も肝要也、其討伐に就ては素より駐劄軍隊の力に依らざる可らざるも、豫め之を警戒して地方に在留者は無論、良民をして不慮の遭難なからしむるは之を警察力に俟たざる可らず、而して保護政治を最も善良に普及するに於ても警察力の普及に待つ所多し、是れ最も人民に直接するものは警察官なれば也、地方の安寧秩序を保全するは警察力の充分なるを必要とす、然るに現在の韓國は果して警察力の不足を感ぜざるか、然り當局者と雖も必ずや大に其不備を感じ居らるゝならん、之を充實せしむるには多くの經費を要するを以て、意の如くならざるものあるは余輩も亦之を諒せざるにあらざるも、可成冗費を節して警察力の普及を計るは目下の急務なるべしと信ず。

之れ全體に於ける警察力の充實を計るには、之が經費の點より巧究せざる可らざるを以て、假に之を緩ふせざるものとすれば、現在に於て最も必要とする部分丈けにても補充するの方法に出でざる可らず、必要なる部分とは乃ち鐵道沿線にして、現に京線の如く伊院驛に果して駐在警官なかりしならば、他の小驛にも伊院と同樣に駐在警官を配置しあるにあらざるべし、若し夫れ鐵道線にして警官の配置なくんば、交通上の安全は到底保持する能はざるべし、今後も斯る事ありては保護政治の遂行に於て多大の惡影響あるべし、鐵道沿線丈けには是非共充分なる配置をなし居らるべけれども、余輩は交通の安全を完ふする爲に速に警察力の充實を希望せざるを得ざる也。

憾ふに今回の伊院驛襲擊の如きも果して警察力の不備より來れるに非ざるか、最も安全なるべき筈の京釜線に於て此禍あり、是れ決して輕々に付し去るべき事にあらず、當局者は今後斯る失態なからしむる事を深く警戒せざる可らざる也。

間島撤退公報

本日間島派出所長齋藤大佐より統監府へ [illegible] 二日諸員を率ゐ當地を出發し又諸員及憲兵隊全部は三日迄に退散す可し

天長節(御ご軍司令部)

天長節は龍山諸部隊下士判任文官同侍遇者及雇員は午前十一時三十分司令部に參集し將校參拜後一同御參拜あり後祝杯を擧ぐべし

仁川の伊藤公追悼會

仁川官民の有志者の發起にて來る四日午前九時より小學校雨天体操場に於て壯嚴に執行せらるゝ筈なり

光濟號艦長其他交迭

光濟號艦長の勝木少佐は今般滿期限 [illegible] 大尉も共に光濟號に搭乘せらるゝ筈にて共に着任したれば昨日度支部及統監府を訪問したり

東京電報

▲伊公國葬の準備

伊藤公國葬準備は內匠頭督の下に進行中なるが式場祭壇其他は建築に着手し、祭壇は間口十五間半に五間とし總檜材にて三方棟に建築すべく(三日迄に竣成の)豫定なり(卅一日)

▲陸海兩軍の弔意

海軍にては伊藤公橫須賀着の當日は弔砲を發し全員葬着の際は陸軍は元帥に準じて弔砲を發すべし元帥以上にして特別の弔砲を發する筈なり同日の弔砲は從來例を見ざる事にして今回を以て嚆矢とす

▲神佛兩用の葬祭

伊公の葬儀は夫人佛式を希望せるより官邸にては千家祭主、神儀式に次いで出棺祭あり日比谷公園の國葬式は神儀式とし埋棺式を行ふ時は佛式とし以後は總て佛式に決定(同上)

▲祭主其他の任命

故伊藤公國葬に付左の通り辭令ありたり(同上)

大教正 千家尊弘

故樞密院議長公爵伊藤博文葬儀祭主仰付らる

權大教正 竹崎嘉進

同 佐々木幸見

同上祭典執行仰付らる

▲秋津洲橫須賀着

伊藤公の靈柩を搭載せる軍艦秋津洲は橫須賀に入港せり

▲倉知局長滿洲行

外務省倉知政務局長は佐分利外務參事官と共に新橋發列車にて西下せるが一行は白仁民政長官と落ち合ひ旅順を視察すと右に就ては秘密に付し居れるも [illegible] に關連し居り(一日)

▲韓帝勅使の入京

韓皇太皇帝勅使趙總管の一行は一時二十分入京した

▲韓皇帝の御代理

韓太子として外韓帝の御代理に列せらる(一日)

▲全國の人口統計

內閣の調査によれば昨年末全國八千八萬八百三十七人にして其內三府は左の如し(同上)

東京 三、〇二六、五八九

大阪 一、一四三、六九三

京都 一、二三三、九二三

▲内田大使の後任

先頃召喚されし高平駐米大使の後任には內田駐墺大使任命され同氏後任には前文相牧野伸顯氏任命さるべし(同上)

▲母國人心の憤激

輿論は韓皇の渡日を翹望せしに義親王になりしを以て憤慨せし處へ又もや閔宮相に變更せし爲め益々憤激し事態益重大となれり(同上)

▲司法職員任命

本日左の通り任命ありたり

司法廳長官 倉富勇三郎、參事官兼書記官 安住時太郎、參事官 岡本至德、淺田賢介、書記官 山邊勇輔 書記官兼參事官 松寺竹雄

尚ほ監獄事務官の任命は數日延引して發表の筈なり(同上)

▲樞相後任は山縣公

伊藤公後任として樞相には山縣公親任せらるべし(同上)

▲天皇陛下の廢朝

天皇陛下には伊藤公生前の勳功を思召され特に來る四日には廢朝仰出さるべしと(同上)

雜報

伊藤公の追懷談(曾禰統監の談話)

故伊藤公を統監に勸めたるは吾輩である山縣公や井上、松方の諸侯も公に說く處ありたるが公の邸に到りて益公に統監就職を勸めたるは實に吾輩である然るに公此度韓人の兇手に仆れたるを聞きては吾輩は直接手を下さずと雖も伊藤公を失ふたるものは實に吾輩であると說き終りて撫然長息浩嘆異に深憂の色あり

▲公は由來衣類や住居乃至食物に無頓着な人で常に頗る貧窮であつた何時であつたか吾輩は公を其邸に訪ふた際公は吾輩に葡萄酒を御めたが其葡萄酒たるや甚だ下等のものであつたから吾輩は自邸に葡萄酒を取りに遣ると云つた處が公の曰く乃公は到底其んな酒を飲む財力が續かないから夫れは止さうと云つた位であつた

▲公は前にも云へる如く住居が何でも宜い方であつたが唯早く出來ることを喜ぶの人で乃ち氣短かと云へば性急の人であつた公が統監としての施政方針も亦實に茲處にあつて公は所謂拙速(這は記者が撰んだ文字で或は語弊があるかも知れぬ)を尊ぶの人なりし

▲公はヤブレ藝妓共を聘んで長飲されたが吾輩は其際俗謠を作りて忠言したことは屢々である、公は其都度頗る立腹したものであるが今も尚ほ眼底數十の俗謠を藏して居る實に思出の種ならざるはないと語りて又愁然とし昔しを偲ぶの情に堪へざるものゝ如し

▲兒玉源太が薨去んだ時に吾輩は祭文を作つたが公の祭文も是非作らうと思つて居る而して〓〓〓〓〓

警察界の大改革(京通)

既報の如く內部警察機關の大改革は未曾有の大英斷を以て決行せられ既に夫々發表せられたるが今其異動の結果を擧ぐれば左の如し

諭旨免官の警察官 七人

新任せし警視 六人

交迭せし警察官 四十四人

新配置警察官 二十人

新採用の警部 十九人(韓人七)

日本より新任警部 十人

以上は概して老朽又は從來多少の批評ありたるものを罷免し新進の人物を採用したるに外ならず尚ほ殘留警視警部中罷免の厄に遭はんとしたるものありたれども太はだしからざるものは戒飭して大に活動せしむるに如かずと云ふに決し暫く其成績を見る都合なりと尚巡視官永田幸太郎氏が書記官に擧げられたるは名譽榮轉にして氏は顧問警察時代より熱心盡す所あり更に其辣腕に待たん爲め特に道書記官に榮轉せるものなりと云ふ

軍司令官東上中止

大久保軍司令官は大演習陪觀の爲め本日出發東上す可き豫定にて行李萬端の準備を了へ既に統監に告別したるに俄かに伊院驛暴徒襲來の飛報に接したるのみならず暴徒の系統は伊藤公の兇變を傳はり日韓の往復頻繁なる可きを察し交通機關の顚覆破壞を企てたるものにして決して輕々に看過し得べからず且勢頗る不穩を呈し其勢力侮る可からざるものあり此際軍司令官の東上は政策上不利益なるを以て斷然無期延期を爲し昨日は官邸に第六師團各參謀を召集し密議數刻に涉りたり其結果一大討伐を開始せらる可し

暴徒追跡の後報

伊院驛に襲來せる匪賊は既報の如く直に吾が守備隊及憲兵隊聯合の勢力を以て附近一帶の地を圍み隈なく捜索を遂げたるも當夜は恰かも舊曆九月十六日の月光茫洋たる秋の野を照らし之が爲めに視界を遮ぎられて追跡上一方ならぬ困難を極めたり依て翌朝に至り更に警戒線を擴大すると共に微塵も漏らさゞる程嚴重に網を張りたるも彼等は遠く智異山方面に逃走せるものゝ如く遂に何等の手蔓かりをも得ざるは實に遺憾なり其後も各隊は益々追跡を進め居れば近々一大快報に接するを得べし

邦人三名拉去

伊院驛に於ける當夜の損害は停車場の全部燒失及び附近官舍及び建物の破壞等にして其他金錢物品等は殆んど奪取し去られたるものゝ如し加之日本人三名行衛不明となり今に其蹤跡發見せず思ふに匪賊の爲めに拉し去られたるものと察せらる同驛長岡田捨吉氏の談によれば從事員全部は即時沃川へ避難せしめたる由なるも混雜の際徒らに周章狼狽を極め一致の行動を取る能はずドサクサ紛れに四散せるものなる可し

統監府行幸

太皇帝 皇帝

太皇帝は伊藤公薨去に就き殊の外御心を惱まされ統監主宰の下に執行せらる可き來四日國葬當日の追悼會に統監邸へ臨幸せられ哀悼の意を表せらるゝ由にて統監府へ通知ありたり尙は皇帝にも同樣御臨幸の內意あるやに承はる

新裁判所の開廳

昨一日より開廳せる新裁判所は京城に於て高等法院、京城控訴院、京城地方裁判所、京城區裁判所、其他地方の各裁判所何れも開廳したることとなるが京城にては裁判所の門前に日本の國旗を交叉し國旗堂々たるは甚だ快心に見へたり訴訟事件は韓國裁判所より引繼たるもの民事四件(二十九日受附)にして刑事は一件も無く一日より韓國人以外の裁判に就きては日本訴訟法を適用するを以て頗る面倒なれば從來の韓國裁判所にて爲したる如く事件の進行は快速なること能はずと蓋し韓國訴訟規則は僅かに百七十餘條なれども日本の民刑訴訟法は双方にて千餘條あるが故なり

全國民の追悼會

日取は未だ確定せざるも來る十日內外に韓全國民は伊藤公の追悼會を營む筈にて漢城府民會等之が卒先となり專ら凝議中なりと聞けり

鄭雲復氏の渡日

伊藤公の葬儀に列する爲め鄭雲復は大韓協會、西北學會、各韓字新聞社を代表して昨南大門驛發車にて渡日の途に就きたり

宮內府博物館の開放

宮內府所管博物館、動物園及植物園は今一日より愈々開園公衆の觀覽に供することゝなりたるが毎週、月木の兩曜は閉園すべしと但し兩曜にして韓國の大祭日に相當する時は臨時開園翌日を閉園とする由にて觀覽料は大人十錢十歲以下は五錢なるが去月三十日を以て京龍仁有志を招待して開園式を擧ぐべき筈の處伊藤公薨去に就き之れを見合せたるものなり由來博物館の設立に就きては故伊藤公の盡力されたる事多大なるを以て三園の開園は公の靈を慰むるものあるに依り本日より普く公衆の觀覽を許すことゝなりたるなりと

改革後の韓警察機關

十三道の警察署及分署數は總て八十八にして其中今回區裁判所增設と共に增置せられたる警察署は二十ヶ所なり尙來年度に於て廿七ヶ所の警察本分署を增置くの計畫あり又巡査駐在所も尙警察署增置に際し六十九ヶ所を增し尙來年度に於て更に增設の計畫にして警察機關は益々擴張せられつゝあり

在韓聯合會議所代表

在韓日本人商業會議所は京元三南兩鐵道急設に關する建白書携帶東上中の仁川商業會議所萩谷書記長をして代表者として伊藤公國葬に參列せしむる由尙は京城商業會議所は特別に議員近藤佐五郎氏を代表參列せしむる事となり同氏は昨朝東上したり

捕虜五百名を解放す

客月中渡邊少將の下に開始せる南韓討伐隊は既報の如く自首者及捕虜の數は約五百名に達したるが彼等の處分に就ては目下詮議中なるが何分多數の事故一々法律に照らし處斷するは頗る困難なるを以て面長をして立會はしめ其保證の下に歸順の誠を誓せしめて解放し以て將來の行動を監視すると

來年度豫算の提出期

各部より度支部に提出すべき來年度豫算は先般來種々の支障にて大に遲延したりしが昨今各部共大に進捗し兩三日中には全部出揃ふに至るべく一面歲入の方も目下司稅局及び關稅局にて調査中にて不日終了すべしといふ

仁川の祀賀式見合せ

仁川官民の催に係る天長節祝賀會及び信夫理事官の奉祝夜會は伊藤公薨去の爲め大御心を察し奉りて見合する事にし同日午前九時四十分より官民有志者は理事廳に參集して拜賀式を擧行するのみに止むべしと云ふ

工兵大隊の爆破演習

工兵第六大隊は本日午前八時龍山作業場附近に於て空中爆破及び午後一時より西氷庫附近漢江に沿ひて水中爆發演習を爲し尙ほ來る四日には僧侶坊坪に於て戰鬪射擊演習を擧行する筈なり

漢城府民會の寄贈品

銀の神仙爐一對を贈るべく昨日渡日の途に上りたる漢城府民會長俞吉濬氏之を携帶したるが右は統監交迭の際藤公に贈るべかりしを調製中にて間に合はざりしものなりと

一進會の追弔演說會

一進會にては伊藤公國葬の當日即四日に西大門外獨立館に於て同公追弔の爲め一大演說會を開催する筈なり

長野實業視察團滯在

二十六名は一昨夜入京昨日京城商業會議所を訪問曾我副會頭より當地の狀況を聽取せり

國葬ご官衙學校休業

四日は伊公國葬日なるを以て仁川の諸官衙學校は休業して弔意を表すべしと

間島駐在文武官論功

間島領土權確定前同地駐在文武官に對しては暴徒討伐の論功行賞に準じて行賞に決定せり

●新任警視と任地

別項警務機關大刷新に際し新進警部中より如左陞任

任警視補羅南署長 警部 天野章四郎

同上補平壤署長 同 國友尙謙

同上補大邱署長 同 是澤眞一郎

同上補木浦署長 同 松井信助

同上補鎭南浦署長 同 安田勝實

龍山通信(三十日 支局報)

▲龍山有志大會 一昨夜午後八時より龍山大島町俱樂部に於て有志大會を開き松原榮氏會長席に就き民團議員選擧に關する協議を爲し後ち候補者を豫選せしが當選せしは大村、兼古、阪、藤野、三木、佐藤、森(芳太郎)村井、國井、木村、德久、松本(彌三)執行、池上、渡邊氏等二十八名にして此中より十三名を拔きて十六名の定數となる譯なるが之れに落着するや否やは頗ぶる疑問なり當日の會衆は約百名にて閉會せしは十一時頃なりき

▲暖室器の備付 鐵道廳にては毎年十一月十日頃より客車內に暖室器取付けるが例なれども近來北韓方面の寒氣稍強き爲め新義州平壤間は昨一日より取付け平壤南大門間は來る十日より京釜間は十一日より備付けることゝせり

▲上京期は未定 大久保軍司令官の上京は都合に依り延期せられ出發期日も未定なりと云ふ

▲暴徒首魁就縛 從來全羅南北道に出沒して猛惡暴威を逞したる暴徒首魁金海山は兩三日前羅州の北方約二里の地點に於て派遣隊の爲め捕縛せられたり

▲暴徒と討伐隊 去る卅日午後八時四十五分軍司令部に達したる報告に依れば伊院停車場を襲擊したる暴徒は茂豐場方面より數日來行動し來りたるものゝ如く多分文泰成(?)の率ゐるものならん停車場襲擊に就ては特別の目的意味を以てしたるにあらずと察せらる驛員全部避難せし爲め報告延着して暴徒の蹤跡不明なるも今朝他よりの情報に據れば錦山南方の「カンセン」に於て該暴徒らしき者朝食を喫したりと依て守備隊にては一昨卅一日より將校以下六十名を現場に急派し憲兵と協力して約五日間の豫定にて根據地と認むべき錦山、珍山、龍潭の地邊を中心として一大討伐を爲すと云ふ

●大神宮の拜賀式 仁川太神宮に於ては明三日天長節奉祝の祭式を擧行せらるゝ筈にて官民有志者參拜すべしと

●各學校の拜賀式 仁川民團立高等女學校及び同小學校幼稚園に於ては明三日午前中拜賀式を擧げらるゝ筈なり

●明石少將の歸任 元帥を釜山まで見送りたり明石少將は昨一日夜歸任

●田口少佐の下仁 海軍少佐田口八盛氏は一昨日仁川へ向け出發したり

●三陟管區長入京 三陟管區長憲兵中尉石崎直太郎氏一昨日入京山本旅館

●作間大尉の退京 海軍大尉作間芳夫氏田口少佐に隨行して下仁したり

●吉原三郎氏東上 東拓副總裁の氏は伊藤公の葬儀に參列する爲一日東上

●小栗管區長入京 原州管區長憲兵中尉小栗直臣氏一昨日入京山本旅館へ

●平賀博士の出發 工學博士平賀義美氏は三十一日釜山へ向け出發したり

●水口隆三氏來着 大邱財務監督局事務官の氏は卅一日入京不知火へ投宿

近事片々

▲今後の對韓政策に就ては世人皆統監の態度に注目す統監の態度や如何

▲統監には無論既に成竹あらむ唯夫れ桂內閣の方針如何が乃ち今日の問題

▲或者は今回の事變は對韓政策に變更なからむと言ふ是は余り見縊り過ぎ

▲若し如斯くんば桂內閣は眞に腰拔け果して然らば列國の嘲笑を招かむか

▲實際現在の儘では安寧秩序の保全は難事須く斷乎たる所置の必要を認む

▲或者亦言ふ此際警察權を我に收めんと如斯は全く夫れ小刀細工なるのみ

▲韓人兇徒の連累續々と繩に就く露國官憲今回の働きは殊勝尙連累あらんと

▲兇徒の首領は勿論彼の李範晉ならん

▲彼と相通ずるもの必ず京城に居らむ

▲內外相呼應して排日行動を鼓吹す

▲此根元を枯すには唯夫れ一の斷行のみ

▲懷柔すれば爲する程彼等は付上る懷柔は決して歸服に効なし威壓却て妙也

▲伊公は人道主義を以て韓人に臨めり而も其人に毒手を振ふ眞に度し難し

▲恩を仇に報ゆる度し難き韓人に對して他に策なし對韓策の變更は當然也

▲今日の場合列國は皆帝國に同情し總て對韓策の變更を期待しつゝある也

▲天與の機を失することなく宜しく一展進を計る可し是れ伊公の素志のみ

▲在外韓人の取締に就ては今後如何なる方針を取る可きか是も亦今後問題

▲大西鄕以來黃白の爲に動かざるもの伊公一人と犬養評す然り是公の特點

▲伊公は常に創見獨得の政治家他の元老企及し能はずと大石批評是亦至言

▲川上總領事大手術後の經過不良なりと或は生命覺束なかるべしとの說有

▲彼は露語出身の外交家中尤も前途有望なる者の一人希くは回復せよかし

▲川上は山座式にして磊落豪放なるも或點に於ては山座以上の手腕ある也

東京電報

▲吊慰料の拒絶

伊公祭粢料三萬圓と弔慰金十萬圓を韓廷より [illegible]

男爵を授けらる

陛下行幸仰出さる

來る五日大演習御統監の爲め栃木縣下へ行幸仰出さる(以上一日着)

福井茂兵衛優（六）

當地壽座に出演する

今は懐てゝ傑然とする樣です「東西新聞」も「公論新聞」と同じ運命で初めの間は可成り振つたが後藤伯が金を出してくれぬので次第に衰微して來た。そこで落合は「君に委任するから何卒か遣つてくれ」との頼み至難いとは思つたが止むなく引受けると土佐派の人々は不平であつた。併し僕は耳を傾けず孜々として經營に從事して居ると某日後藤伯が訪ねて來て「落合から受取つた委任狀を鳥渡見せよ」との事、何心なく手に渡すと無言のまゝ引裂て捨てた癪に障つたからの場で打擲らうかとしたがグット耐へて無事に濟ました。是からは土佐派の人々に蹂躙せられ遂に廢刊したのです。

斯う偲うして居ると條約改正問題が焦眉の急を告げ改進黨と自由黨との軋轢は激しき火花を散らした當時改進黨は新富町の猿屋に本陣を張り我々自由黨は相撲屋に事務所を構へ互に運動に熱中せる結果、腕力沙汰に及んで血腥き風の絶へ間がなかつた、或時僕は單身敵の陣營に暴れ込んで居合す尾崎行雄を捉へ格闘を結んだが突然後ろから田中正造が僕を抱き止た、向き直つて引組んで居る間に尾崎は二階から飛び降りて雲霞と姿を消した、それは單に一例に過ぎないが怎んな冒險を遣つた事は幾度乎、次で喧かましい第一議會の召集期日が切迫して來たので數多の壯士は一生懸命、各地に割據して撰擧運動や政談演説に狂ひ廻り宛然修羅の巷のやうでした、無論僕も死者狂ひに奮戰をれつぱじめ遂に北中通にある改進黨の事務所に亂入し島田三郎に決闘を申込んだ處が不幸にして決闘條令違反の廉で法廷の身となり、寺尾裁判長の判決で無罪と言ひ渡されたが醍岡檢事の控訴で再び控訴院に廻り出た、同院でも幸に無罪の宣告を受け未決監に居ること前後一ヶ年半でヤット青天白日の身となつた、と思ふ間もなく過激な演説を遣つて又も白州へ引出され今度は處刑を受けたのです。

若返し清華の女將

▲嫁入の相談纏まる

永樂町と謂はる迄もなく韓國で清華亭と云へば三歳の童子も……とは少し大袈裟かも知れぬが兎に角女に色目を使ふ程の知恵、往來で男に逢へば一寸れ臀を撫でゝ見る程の才覺ある男女ならばウン彼れかと首肯かるゝ例の沈没亭の女將れかつさんの調子が此頃常と違りて浮き〳〵して居るので此奴必定曰く因縁が曰く言ふ可らざるものゝあるに相違なしと秘密をつきと探つて見たるに驚く可き一新事實を發見したるを以て記者一人一寸成程驚いたねゑと密に黙いて居るのも知恵の無いこと聊し逐一事の顛末を報道して讀者諸賢と共に驚くの悧巧なるに勝かずと秋の夜の永々しき標題の下に報道することゝなしたるが彼れは一時韓國内部の大臣として勢威隆々温突の屋根にトマりたる朝鮮鳥位は睨み落されたろうと云ふ噂さへありたる宋秉畯野田平太郎を手の裡に丸め込みて血の油の出る程絞り上げ現任の家屋も秉畯の油の凝固とか然ればこそかつ君とて宋君に對しては丹誠を抽んでゝ誠を盡し居たるが其の君の余儀ない事情で大臣の位を退り日本へ渡りしより遠くなる程薄くなる流車の煙りの見へなく成るだけの間は宋君の寫眞を眺めてばつかり居た相なが南大門を出た汽車が釜山に着いた時分からモウ男戀しの念ひむら〳〵と電氣會社の煙筒から吐き出さるゝ煙の如く湧き矢も楯も堪らず彼れか此れかと探すのに眼ばかりでは面倒と幸ひに上を向いてる鼻を利用し一方ならず苦心したるも今の京城には之れぞと思ふ人もなきより思案に思案を重ねし末が此れ迄關係せし男の過去帳を引き摺り出し調べ上げたる結果は元當地第一銀行支店員にして相惚れの交情なりし某の今は神戸に仕ひせるが遂先日奥さんが亡なつたと云ふを思ひ出し思ひの丈を筆に云はせて送りしより燒棒杭の火の附き安く婚約目出度成立し彼れ迄に仕上げたる家財道具一式は實兄何某に讓り渡し近日中渡日の上吉辰を撰びて結婚の式を擧ぐるとか何んにしても定まりし人の妻となることとなれば目出度次第とこそ云ふべけれ讀者諸君れ手を拜借、イヤ、シャンシャンシャン

一奴女郎の夫婦喧嘩

一昨日午前十時過ぎ仁川敷島遊廓内敷島樓支店にて男の頬に食ひ付くやら泣くやら蹴るやら噛みつくやらの痴話喧嘩を初め方花町派出所に訴へ出づるものありしより警官は直に同樓に出張して取調べたるに加害者は大の最莫中なれば町二丁目土井方居住在日當時仁川の鐵工職森元殿郎（三〇）と云ひ同樓抱娼妓なる一奴女郎の内縁の夫なるが痴話が嵩して終ひに喧嘩をおつ初め一奴は姫御前にあられもなく殿郎の頬端に噛み附きし騒ぎに殿郎も默としては居ず蹴る挑るの活劇を演したるが之れを見てる同樓の娼妓はドッコイ買物に疵を附けられてなるものかと中に割つて入りたるに殿郎は血迷ひたるか其娼妓の頭部を滅多矢鱈に殴打して負傷せしめし次第と判明せしにぞ先づ加害者を本署に引致し説諭の上放還せりと

勝利拍子差押へらる

▲一枚の浴衣が三十圓

仁川淺岡の勝利と云ふはつい此夏まで當地井門樓に居た千太郎とて名高い不始末ものなるが淺岡へ住み替への際も澤山の借金を殘して何んの挨拶も無く後足で砂を掛けたと云ふので各債權者は何れも憤慨なし遂に此程某債權者より九十圓に對する差押へを爲せしに衣裳は勿論三味線さへも入質し殘るは破れ鏡臺と浴衣がタッタ三枚あるのみで執達吏も啞然たるのみなりしと、尚ほ本人は衣裳の無き爲め昨今病氣と稱して破れ蒲團に潛ぐり込み娼費も成さゝるにぞ流石に淺岡の婆さんも閉口の体なりとはれ氣の毒

●無意氣な阿兄連

長崎縣平民石橋八十吉（三三）及び山口縣平民中島道助（三二）の兩人は相生町魚市場の勇み肌なるが一昨日午後十一時頃北米倉町廿六番地林組駐車場前に於て酩酊の結果口論を爲し亂暴を働き居たるを警官出張して取鎭めたるに是れより先に姓不詳の男が自轉車にて瞭然に來り兩人に衝突して其儘逃走せし處に林組の車夫數名が仲裁に入りたるが其際金入れの落ちたるを拾得して其落主を搜索せるを兩人が互に持主なりと主張して茲に爭鬪を初めたること判明したるより取調べの上金は中島に下渡し林組の障子三本を破損せし辨償金一圓五十錢は兩人にて支拂ひ和解せしめたり

●勘定の嫌ひな男

長崎縣平民當時京城本町十丁目三番戸の一無職白木鐵太郎（三九）は去る廿日午後九時半過ぎ長谷川町二丁目五十番戸飲食店朝日亭事松尾きの方に應擧に揚り込み酒肴を命じ鱈腹飲食なし一圓六十錢の勘定が出來ず遂に亭主が附馬となり同人の知人なる太平町二丁目森某方へ行きたるも猶は調達の途なくド、其筋の厄介になりたるが同人は警官に向ひ自分の需めざる品迄も勘定書に記載しあれば説諭を願ふとて苦し紛れに無實の訴を爲せし廉に依り大目玉を頂戴し結局一日の猶豫を與へて支拂ふ旨言渡されたりとは馬鹿な奴なり

●銃猟者生死不明

仁川京町一丁目魚市場樓上に居住せる原末吉（三二）と云ふは先月廿一日朋輩二名と共に江華島に銃猟の爲め赴きヨナンと稱する村落に宿泊し思ひ〳〵銃を肩にして出で行きしが明記不[illegible]にて如何なる譯にや二三日を經過すれ共歸り來らざるより若しや不猟に憤り無斷にて引揚げたるにもあらずやと朋輩は先づ仁川に歸來したれど末吉の姿見へざるにぞ或は猛徒の毒手に斃れたるにはあらずやとの疑問を起すに至り前記朋輩の道案内にて親族知己多數と共に去る三十日現場に向け急行したるが今に行衛不明にて生死の程も計り難しと

●雛子怒て曰く

本當に憎らしいのは新聞社の人です何んだ此間の京城新報には妾が仁川へ住み替へるだの又日日新聞は金線さんとどうだの、チョット跡方もないことばかりを書いて、成程仁川行の人を馬鹿にして居ら、ツ話はないでもなかつたが（火の無い處に烟りは立たぬチー）それは先方に居る元朋輩の子供衆が勝手な事を云つたばかりです、ヘン延喜でもない人氣に障るわ（それでは開城行かね）井門の雛子さんだけはチト望みのある身体ですよ輕々しく飛廻はつて誰れかの樣に不見轉は厭やですよ

●本町のボヤ騒ぎ

一昨日午後四時十分頃本町三丁目十六番戸松永遂次郎方湯殿の前なる山本旅館との間の板壁二枚が燃ゐつゝあるを近隣の者が發見し直ちに驅付け大事に至らずして消止めたるが原因は遂次郎の孫なる本町四丁目一番戸渡邊中辨の次男康次郎（九）が湯殿附近に於て遊び居たる時風呂釜の燃木を引出し板塀の側の古芥箱に點火したるに其古籠が一時に燃ゐ揚り板塀に火の移りたるなりと

●牛を落て大目玉

一昨日午前十時頃仁川龍岡町巡査派出所前に牛を放置せるものありしかば其飼主を搜査中右は仁川居住某韓人の所有と知れたれば引渡されモー此後は決して斯る不注意の行爲あるまじと引き退りたり

●家庭料理通の出版

本書は日本全國に亘れる時事新報の讀者が其の經驗に成る料理法を記述して送りたる投書を一粒選りに精選したるものにして春夏秋冬の畑のもの山海の魚鳥料理凡て五百餘四十一年末日までに「時事新報」文藝週報」に登載したるもの盡く此の内に收められ賞金を受けたる得易からざる料理法にして然も空想料理、茶人料理なるものなく眞に直く家庭實際に行ひ得ることに於て確に世間普通の料理書と其の類を異にせり、製本裝釘凡て齋藤松洲氏の意匠に爲り新形總クロース製美本索引目次二十八頁いろは引の便法を以てし本文二百五十頁篇中また氏の筆になる挿畫に富める許多の挿畫を有す趣味と實益とに於て近來稀に見る好書たるを疑はず体裁の優雅なる進物に用ゆべく廣く一般家庭及び婦人に薦む學校教程の參考に亦大に可ならん（正價六十五錢郵税四錢東京時事新報社發行）

●韓人の迷子

一昨日午後五時過ぎ本町八丁目通りを八九歳位の韓人女兒の迷子ありたるを本町憲兵分遣所に於て保護を加ゐ置けり心當りの者は至急引取方申出づべしと

●仁川病院のボヤ

一昨日午後二時頃仁川病院賄所の煙突より發火し邊りの壁に燃移りてあはや大事に及ばんとせしが恰も良し逸早く之れを發見して消し止めたりと

●目出度く年明け

仁川一山支店の若廣は今回年期を勤めあげて廢業せり

壽座の好人氣

▲韓國では又見られぬ

當地壽座は福井茂兵衛、伊東文夫一派を以て去る三十一日開場せしが開場二時間前に既に滿員となりたり、當日は伊東一派の出し狂言たる白虎隊なりしが福井は言ふ迄もなく伊東、小泉其他各優何れも意氣頗る合致して寸分の隙だもなく近來見ざる好芝居なりし尚は今明二の替りは左の如し

一番目　ベニスの商人　二場
場割　ベニスの法廷、同海岸
二番目　近代劇「潮」　七場
場割（一）日光山中の櫻（二）鹽原七つ岩楓（三）鹽原坂巻幸介宅（四）同家裏口暗闘（五）上野清水堂の靈（六）鎌倉海岸汐干（七）鎌倉米津別邸

尚ほ潮劇は佐藤紅緑氏の作にして高田河合等に依つて數回演ぜられ好評を博したり場面は春夏秋冬に仕組みたれば劇の面白さと共に舞臺背景等の又見るべき者多しと

吉凶鑑

本町五丁目　三一館判斷

十一月二日舊九月廿日●三碧佛滅丙寅
さたん△一白●治金礦山等には良好什寳の紛失若くは破損なきよう留意すべし△二黒●飜踏過失多し新事見合すべし旅行轉住學者療病の事には差支なし△三碧●他人より邪魔を受くるあり旅行婚姻集團結社等凶△四綠●家庭朋友間に紛爭を起すなかれ壯者は色情痴情を戒しむ△五黃●盗難紛失爭論避くべし建築動土旅行轉住等良し△六白●障害多き日なり長上より吝疑にあふあらん創始改易の事凶尚旅行見合すべし△七赤●不利不通の日なり新事見合せの事建築農業には良好△八白●徒勞に歸し易き日なり創始改易凶尚金談取引相談等勁なし△九紫●顯進の日大概吉入學門婚姻養子弁下し等良し

▲平民文壇▲

▲世界の偉人伊藤公は兒暴なる韓人の手に罹りて胡沙吹く風荒ふ滿洲の野哈爾賓停車場に於て逝去せられた、死生自ら命あり人力の以て奈何ともする能はずとは云へ予は遭難の跡に顧みて聊か遺憾なき能はずである（村碕）▲商人よ徒に不景氣を嘆せんよりは何ぞ一歩を進めて之れを利用せざる不景氣は君等の商略商才を發揮する好個の機會にあらずや天長節已に來り歳暮亦目睫の間に在り奮起せよ（仁作）▲秋高く馬肥ゆ運動の好シーズンである余先日京城に運動倶樂部の設立さるとの事新聞紙上にて見て大に贊成す余元來野球狂なり計畫諸子大に奮て獨立せる京城チームを作るべし、余は早々入會し活動せん（龍山好球生）▲廣告に費を拂入するは人目を引く上に効力があるが在韓の新聞廣告の書は概して拙劣で往々見るに堪ゐぬ者がある要するに廣告術の幼稚な爲めだらう（春郎）▲米國へ藥書を出した其宛名のインクがにじんで少々不分明であつたから其傍へ片假名で振假名を付けて置いた僕は用意周到な人間だと後で氣が附いた（はの字）▲僕の近所の韓人の家で鳩を飼つて居るが夫れが殆んど毎日の如に僕の部屋の窓に來て些の曇りなき愛らしい眼に僕のペンを走らせて居るのをヂッと見詰めては平和な聲で鳴く其の傾げたる首から肩へ掛けての美しい姿は何んとも云へぬ滑く尊く見られる（への字）▲僕はハンペンが食べたい秋刀魚が食べたい更にバカ貝が食べたいが京城に見當らぬ、見當らぬので一層食べたい（伊地北奈）▲ホントに意地穢なだ（小僧）▲鑑屋染工場に知らせします篠田薫と云ふのが若し新郎殴の夫れならば先般大連にて死亡しました（世話燒）

●天氣豫報

（自一日午後六時至二日午後六時）

北東の風曇

卅一日（華氏）　最高温度　五五、一　最低温度　四四、五